

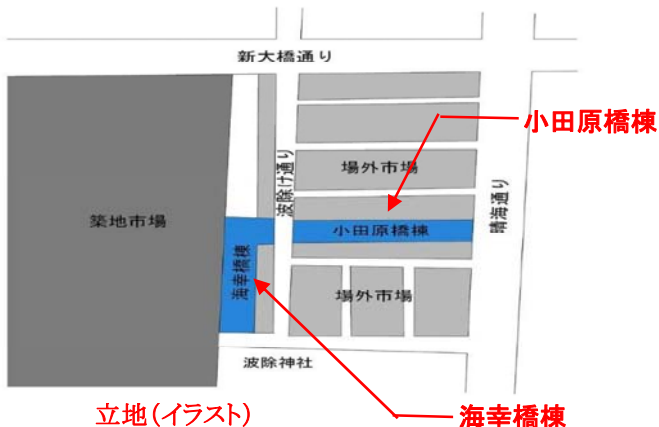


■背景

築地場外市場は、築地市場と共に発展し今日の「築地ブランド」として、食のプロ、一般客、国内外の観光客に支持され親しまれてきた。築地市場移転に伴い、築地場外市場を取り巻く環境は大きく変化していく。「築地魚河岸」と名付けられた本施設は、中央区が移転予定の築地市場仲卸業者を招き、築地場外市場の活気とにぎわいを維持継承し、「食のまち築地」の新たな拠点となることを目指して計画された。

■立地

計画地は、旧築地川と東支川を埋め立てた土地で、晴海通りから波除け通りまでの 22m×120m、波除け通りの小田原橋から海幸橋までの 22m×117mの細長い土地2か所からなっている。それぞれの両端が道路となっており、晴海通り側を小田原橋棟、波除け神社側を海幸橋としていく。(イラスト)



場外市場は、晴海通りと波除け通りを結ぶ道路に面する店舗を回遊する人で賑わっている。小田原橋棟は場外市場のほぼ中心に位置し、まさに「ウナギの寝床」状の敷地ではあるが中央に通路を設け両側に路面店を設ければ場外市場の人の流れを阻害することなく賑わいの中心となることのできる。さらに海幸橋棟は波除け通りから将来の築地市場跡地再開発地域へと人の流れを誘導できる。

■平面計画

現築地市場の店舗形態のサーベイを行い、1階店舗は約15㎡を基本ブロックとしてモジュールを定めた。本施設は一般店舗であるため、中央通路は買出人、一般客、観光客が買い歩きやすい幅員3mを確保し、店舗区画から前面に2m程度商品展示できるスペースを確保して、幅員としてトータル7m程度の広がりを持った通路空間とした。加えて、店舗外側にはターレーも走行可能な搬入動線を確保し単なる商業施設ではなく市場を意識したつくりとした。

現築地市場の利用形態は、店舗上部の2階にはしごで昇降することにより、事務所兼倉庫として利用している。本計画では2階床に連絡用開口部を設け、はしごを掛けると上下階一体利用が可能な構造としている。

法的規制で高さを10m以下に抑える必要があり階高に制約があるが、そもそもが漁港に隣接した自然発生的な市場の、「賑わい」「喧噪」をイメージしており、狭さは良いとするも息苦しさを避けるため通路上部の2階は極力吹抜としてできるだけ開放的な売り場空間とした。